

J1リーグの舞台裏の世界に触れ、貴重な体験を得る!!

7月6日(土)、『天空の城 GION 野津田スタジアム』行われたJ1リーグ公式戦の『町田ゼルビア VS 名古屋グランパスエイト』の試合のお手伝いを今回も広報の岡田氏から依頼されました。仕事内容はボールパーソンと担架要員です。一昨年からお手伝いするようになって今回で五回目ですが、今年度からJ1に昇格したこともありピッチから見る風景はバージョンアップしたように思えます。



＜片倉高校が映し出された＞

また、現在、J1リーグトップを走るゼルビアのゲームということもあり、注目度も高くミスは許されないという緊張感もありました(特にサポーターの前ですね)。この仕事のメリットは、J1リーグの舞台裏の仕事に触れるだけではなく目の前でプロ選手のレベルの高いプレーを見ることができてとてもいい体験が出来ました。今後の進路選択のひとつになるといいですね。今回も試合後、担当者の方からもマッチコミッショナーからお褒めの言葉をいただきました。首位のチーム=優勝の懸かっているゲームですから正直ホッとしています。

今回、話をいただいた町田ゼルビアの広報の岡田氏は友人の教え子です。20年前は高校生で良く試合をしたものです。彼の仕事の様子を見てみると社会で揉まれ「立派になったな」と嬉しく感じます。片倉高校サッカー部、貴重な体験をさせていただき感謝です。長いことサッカーに関わっていると多くの人と繋がっているなど改めて感じます。今後もチャンスがあればサッカーに関わる仕事にも積極的に参加していきたいと思えます。⊕本物に触れるインターンシップ⊕



今こそ「頑張れ!!」と叱咤激励できる環境を作る!!

新型コロナの影響からなののでしょうか?ここ二・三年、都立高校の部活動加入率の減少が顕著であるという報告されています(言い訳にたくはありませんが)。本気で高い目標達成を目指す生徒は私学に流れています。人工芝グラウンドや照明の施設面やスタッフ(外部指導員)の充実や学校側のバックアップなど恵まれた環境が整備されたところに人が集まるのは当然のことです。公立高校がそれに太刀打ちするためには、相当の覚悟と努力が必要です。ここは、アイデアを出して工夫していくしかありません。

また、ここ数年の子どもたちは「厳しい・辛い・キツイ」ことに立ち向かえずに避けていく傾向が顕著に見られます。片倉高校サッカー部でも入部したのにも関わらず、トレーニングに付いてこれなくて辞めていくものがあります(スポーツ推薦を受けたものが平気で辞めるのですからこれには困っています)。当たり前なのですが、強度の高いトレーニングに走り中心のフィジカルトレーニング、厳しいOFF the pitchの躰けの部分(これは学校の問題ではありませんが…)は、片倉高校サッカー部の生命線であり、普通の子子どもたちが結果を出すためには必要不可欠です。まさに、避けて通れない部分であり、そのためには大きな志と覚悟が必要です。

最近では、「褒めて育てる」ことが頻繁に取り上げられる風潮がありますが、果たしてそうでしょうか?「褒める」ことも時には大切ですが、「ダメなものはダメ」と本気で叱ること、頑張れない子どもたちに「もっと頑張れよ!!」と心に火を点けるように煽ること、激励の意味を込めて「男なら歯を食いしばって厳しいことに最後まで立ち向かい乗り越えてみろよ」と言える環境が片倉高校サッカー部にはあります。サッカー部のウェアを着た時だけがサッカー部員ではありません。常に見られているのです。高校三年間、厳しい環境の中に身を置き、ひとつのことを挑戦し最後までやり切ったものだけが獲得する自信が、三年後、五年後、十年後そして長い人生を豊かなものにします。片倉高校サッカー部の三年間で子どもたちは成長し、卒業時に大きな差を作り上げていくのです。今こそ、「頑張れ!!」と叱咤激励できる環境作りをしていきたいと思えます。